

意外とわかっていない基礎的な生態 様々な生活史 を持つ淡水カジカ類の生態解明

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産研究・教育機構 公開日: 2023-04-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 竹下, 直彦 メールアドレス: 所属: 水産研究・教育機構
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/217

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution 4.0 International License.



意外と分かっていない 基礎的な生態

様々な生活史をもつ淡水カジカ類の生態解明



生物生産学科
竹下 直彦

研究の目的

淡水カジカ類は内水面漁業の重要な地域特産種として、増養殖が望まれています。それらは様々な生活史をもち、1年で生涯を終えるヤマノカミ、2年で産卵を行いその生涯を終えるカマキリ、複数年にわたり産卵を繰り返すカジカ小卵型・中卵型・大卵型を対象として、個体識別法によるフィールド調査と飼育実験などを実施しています。

研究の成果

西日本には、海で産卵して川に遡るヤマノカミとカマキリ、川で産卵した後海や湖に降り、再び川に遡るカジカ小卵型と中卵型、河川の上・中流だけで一生を送るカジカ大卵型があります（図1）。研究の結果、海で産卵する2種の最適水温は20℃、他の3種は16℃と低く（図2）、5種とも天然河川では、夏季にはほとんど成長しないことがわかってきました（文献は魚種名（学名）と水温（water temperature）と成長（growth）で検索できます）。

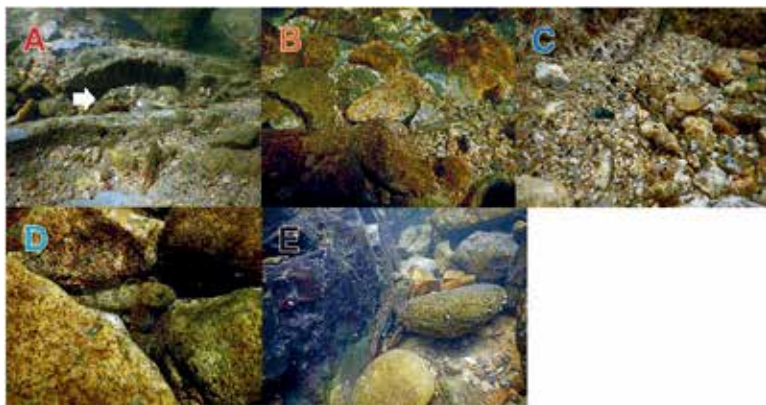


図1 淡水カジカ類の生態写真
A:ヤマノカミ(矢印)、B:カマキリ、C:カジカ小卵型、
D:カジカ中卵型、E:カジカ大卵型

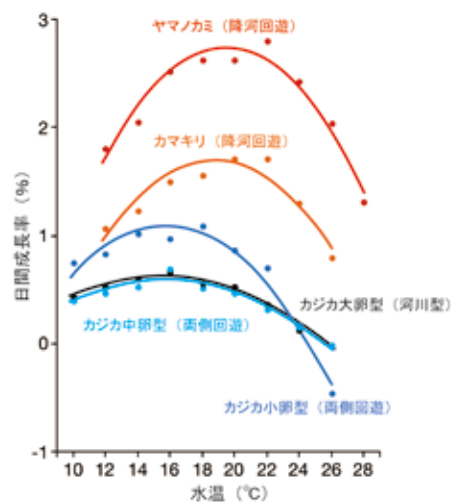


図2 飼育実験で明らかとなった淡水カジカ類5種の成長(日間成長率、%)と水温の関係

波及効果

- ・養殖技術の改善に貢献します。
- ・容易に移動可能な魚道の設置や河川改修など、自然河川における保全策の構築に寄与します。